

授業科目：	医療行動科学		
科目区分：	保健福祉学部 専門領域理解の基礎となる科目	受講者数：	40～60 名程度
担当者：	細羽 竜也（保健福祉学部人間福祉学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型 AL を組み合わせて実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	課題調査，グループワーク，プレゼンテーション，ワークシート		

1. 授業の概要と目標

【授業の概要】

本講義では、行動理論、健康心理学、社会心理学を基盤に、患者・当事者の心理状態と行動特性、ストレスと対処行動、医療福祉場面や生活場面での人間関係の影響などを理解するための基礎理論について講義する。具体的には、以下のテーマを扱う。

- ①心理社会的ストレスの疾患・障害への影響
- ②健康に影響を与える行動問題と対策
- ③国民に健康増進の意識を育成するための包括的な取り組み

【授業の目標】

この授業では、履修学生の到達目標を以下のように設定する。

《知識・技能の観点》①医療行動科学に関する基本的知識を理解し説明できる。②疾病や障害、援助に関して行動論的な解釈を理解し説明できる。

《思考・判断・表現の観点》①医療上や生活上における健康問題に意識を向けることができるようになる。②得られた知識を活用し、問題解決に活用することができる。

《主体性・協働性の観点》授業に関心を持った内容を調べて、他の人にわかりやすく説明することができる。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「医療行動科学」

第 14 回 授業テーマ「生活習慣改善の試み③：健康教育の考え方：行動変容の技術を学ぶ」

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 15分	(1)小テスト(5分) (2)前時の内容の振り返り(7分) (3)本時の目標の理解(3分) 目標:生活習慣改善プラン(資料2)を作成させる。	(1)(2)前時の要点の復習と疑問点の解消を行い、知識の定着を図る。 (3)本時の学修の流れと目標を理解させる。	小テスト(5点満点)
事前準備	<授業前の課題> 第7回・第9回・第11回の授業において、日常生活上での生活習慣の行動変容の取り組みをレポート課題として課している。加えて、前時の授業において、課外学修の成果を資料1に示した形式でまとめさせ、本時に持参させた。	各レポート課題で取り組む目標と実施方法を明示して取り組ませる。前時においては、資料1のように参考資料を示し、これまでの取り組みをまとめさせる。	各レポート課題(5点満点) 資料1作成(10点満点)
展開 60分	(1)基本事項の説明(20分) (2)グループワーク(10分) 4人程度のグループを形成し、事前の課外学修で各々が作成した資料1について、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。	(2)事前に配席表を示し、すぐにグループワークが実施できる体制を整える。自分たちの取り組みを、(1)の基本事項を踏まえながら、振り返らせる。	

	<p>(3)生活習慣改善プラン(ワークシート:資料2)の作成(20分)</p> <p>①行動目標の作成:説明とシート記入 ②記録方法:説明とシート記入 ③現在の生活習慣の状況:説明とシート記入 ④介入後の生活習慣の状況:説明とシート記入</p> <p>(4)グループワーク(10分)</p> <p>(2)のグループを用いて、課外学修の成果を踏まえながら、自らが作成した生活習慣改善プラン(資料2)について、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。</p>	<p>(3)ワークシートの記入が適切に出来るように、講義内容とシート記入の方法を関連付けて説明する。</p> <p>(4)ワークシートの内容を学生相互に確認させ、生活習慣を変容するための適切なプランニングになっているか確認させる。</p>	<p>資料2作成 (10点満点)</p>
<p>まとめ 15分</p>	<p>(1)本時の授業内容のまとめを行う(5分)</p> <p>(2)個人学修:リアクションペーパーに、本時の授業で学んだことや質問事項等を記述させる(10分)</p>	<p>(1)本時の授業の要点を示しながら説明する。</p> <p>(2)提出後、授業終了とする。リアクションペーパーの内容は毎回評価していることを事前に説明しておく。</p>	<p>(2)リアクションペーパーの評価(3点満点)</p>

3. 成果・効果

リアクションペーパーを確認すると、自らの生活習慣の改善に意欲を示したり、また授業内容について適切な知識と実践に裏付けられた技術を得たとの報告が多かった。単なる知識の提供ではなく、個人あるいはグループでの主体的な学修機会を設けることで、知識の活用意欲を促進したと考えている。またグループワークを取り入れることで、各課題への意欲が向上した。

4. 課題

授業中に取り組む内容が多いため、段取り良く進めないと90分を超えてしまう。しかし速いペースを進めると、グループワークが乱雑になったり、ワークシートの記入が不十分であったりすることがある。取り組む課題の焦点化が課題となる。

5. 資料

資料1:課外学修の成果(事前作成資料):例示

資料2:生活習慣改善プラン(ワークシート):例示

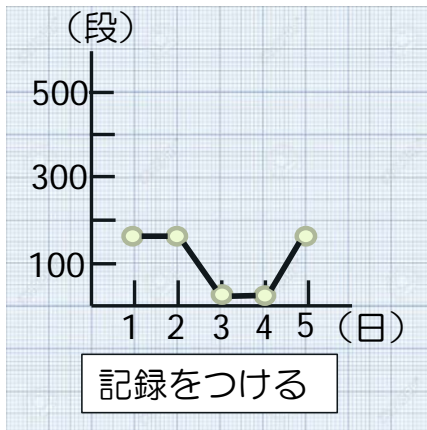
医療行動科学 授業外学修⑥レポート

学籍番号 _____

氏名 _____

○行動目標 階段を1日500段上る（下りるのは計算に入れない）

【①ベースライン（6月13日提出）】



【②先行子操作（6月27日提出）】



【③強化手続き（7月11日提出）】



【所見】

- ベースライン時から，行動目標を意識し，階段を用いる日が増えた。
- 行動目標シートを1日1回見るようにすると，ベースライン時より上った階段が増えた。
- 家族に報告すると，報告を楽しみにされたので，朝夕に意識的に階段を上るようにした。目標を達成できた。

生活習慣改善プラン（例）

学籍番号 _____ 氏 名 _____

① 行動目標

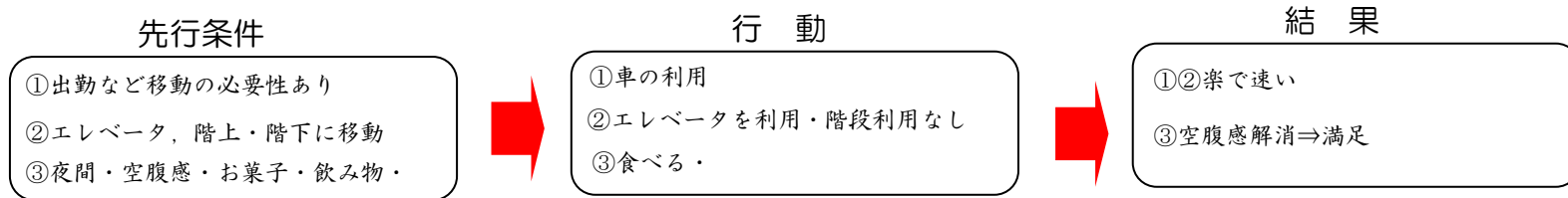
<問題となる状況> 肥 満 ⇒ <問題となる行動> ①②運動する機会が少ない・③間食が多い

<達成基準> ①1日20分の歩行 ②階段を日に3回使う ③夜9時以降の間食禁止

② 記録の取り方

①1日の歩行時間の計測（分単位：野外移動のみ） ・ ②1日の階段利用回数 ・ ③夜9時以降の摂食回数 どれもグラフ化

③ 介入前の行動随伴性



④ 介入後の行動随伴性（介入方法：代替行動を家族に報告・フィードバック<オペラント強化>）

